



秋冬だいこんの栽培について

秋田地区営農センター 係長 熊地 聡

●栽培ポイント

- ①寒さに強く暑さに弱いので、根が深く張るので、畑はできるだけ深く起こします。
- ②排水の悪いところでは畝を高くしましょう。
- ③肥料の量が多いと形が悪くなったり大根内部の障害が発生しやすくなります。

1 畑の準備【施肥例】(10a当り)

土づくり	完熟堆肥	2,000kg	基肥	有機入野菜専用 (13:10:12)	100kg
土壌改良材	苦土タンカル	60kg			
	ようりん	60kg	追肥	畑追肥用 燐硝安加里S646 (16:4:16)	10kg
	FTE	4kg			

2 品種の選定(品種名、種苗会社、特徴)

【青首系】8月播き:タカイの総太り(高井南茄園)【ス入りが遅い】、耐病総太り(タキイ種苗)【定番品種】、YR味づくり(丸種株式会社)【早太り】、冬自慢(サカタ種苗)【肉質がやわらかい】など

【白首系】8月播き:耐病干し理想(タキイ種苗)【生漬け、干したくあん向け】、香漬の助(三重興農社)【生漬け、いぶり向け】など

3 播種作業

- ①条播き:70cmの畝幅で溝をつくり、鍬などの底面で溝幅をつくり株間25~30cm間隔で4~5粒の種子を播きましょう。
- ②条播き:100cmの畝幅、株間25~30cm、条間35~45cm。

4 播種後の管理

本葉2~3枚に間引きをし、その後、2~3回に分けて行い、本葉6~7枚になったら最終的に1本にしましょう。

大根の形状、長さ、太さの決まる時期は、最終間引き前後に「肥料切れ」や「間引き遅れ」があるとだいこんの長さが短くなったり太くなくなったりします。

5 収穫の目安

総太り系では、播種後55~60日前後(根重1.0~1.2kg位)が収穫の目安。

また、収穫残りのだいこんを全部抜き取り、畑から外へ出しましょう。

●収穫までの病害虫防除(平成30年7月2日現在)【防除一例】

薬剤名	使用量	適用害虫	使用時期	使用回数	使用方法
フォース粒剤	4kg/10a	キスジノミハムシ	播種時	1回	播種の溝土壌混和

薬剤名	希釈倍数	適用害虫	使用時期	使用回数
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	キスジノミハムシ	収穫14日前まで	1回
アグロスリン水和剤	1,000~2,000倍	アオムシ、コナガ	収穫7日前まで	5回
アフーム乳剤	1,000~2,000倍	アオムシ、コナガ	収穫7日前まで	3回
コテツフロアブル	2,000倍	アオムシ、コナガ	収穫14日前まで	2回

こんなときどうする

問1.「ス入れ」を防ぐには?

答1.根元が急激に肥大した場合に起こりやすく、生育中期以降の高温で生育が止まると「ス入り」も多くなります。また、収穫が遅れないようにすることも大切です。

そして、品種間差がありますので品種の選定も大切です。

問2.大根の肌が悪い?

答2.一般的に「ホウ素欠乏」が「キスジノミハムシ」と思われます。土壌中のホウ素が、高温・乾燥により吸収されなくなり、

しだいに欠乏症が発生します。また、チツソが多すぎると、カルシウムやホウ素の吸収を阻害し発生しやすくなるため多肥は控えましょう。「キスジノミハムシ」は、播種時の「フォース粒剤」を使用してください。

